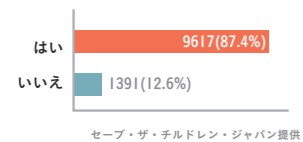


ANNUAL REPORT 2021



石巻市子どもセンターができた経緯

あなたは自分のまちのために何かしたいと思いますか？
11008人に聞きました



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン提供

震災直後2011年5月から6月にかけて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下「SCJ」という)は、宮城県、岩手県の子どもたち約1万人にアンケートを実施し、90%近い子どもたちが「まちのために何かしたい」と思っていることを明らかにしました。その声を受けてSCJが子どもたちに呼びかけ、岩手県山田町・陸前高田市・宮城県石巻市の3つの地域で子どもまちづくりクラブを発足させました。石巻市では、2011年7月に石巻市子どもまちづくりクラブが発足。同年夏には、復興に向けたまちづくりをめざし、「夢のまちプラン」を作成し、そのプランを市に提案しました。「夢のまちプラン」の中の色々な想いを一つにし、実現化したのが「石巻市子どもセンター」(以下、子どもセンター)です。地域と連携しながら子どもたちが企画・デザインを行い、2013年12月に完成し、SCJから石巻市に寄贈されました。寄贈後は、石巻市の児童館として運営されています。



子どもまちづくりクラブが考えた子どもセンターのコンセプト

石巻の活性化のために中高生が中心となって作り、運営していく施設
みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所

子どもセンター 条例前文

子どもは一人の人間であり、子ども一人ひとりが生まれながらに権利を持っています。子どもが幸せに健やかに成長するためには、多くのことが必要であり、子どもたちは次のように語ります。

私たちを中心に、話し合ったり、ふれあったり、交流できる場が必要です。

それにより、大人も含めた幅広い年代の人とのつながりを大切に、絆を深めることができます。

みんなが楽しめて、ゆったりできる場が必要です。それにより、私たちは安心して心と体を休めることができ、笑顔が増えます。

私たちが運動できる場が必要です。それにより、体を動かして楽しく遊ぶことができ、心身ともに、健康に成長することができます。

私たちが学べる場が必要です。それにより、お互いに教え合い、考えることを好きになり、理解することの楽しさを知ることができます。

私たちが自由に社会に意見を発信できる場が必要です。それにより、自主的に活動できるようになります。

さらに、まちの未来について考えることが地域の活性化につながり、さらに多くの人に私たちのまちのことを知ってもらうことができます。

だから、私たち子どもが中心となって活動する子どものための施設をつくっていきたくです。

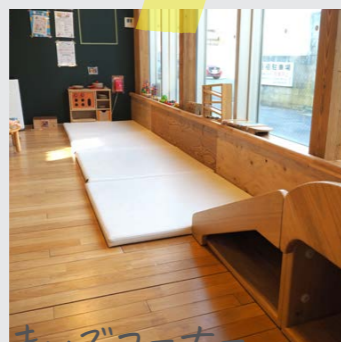
石巻市は、この子どもたちの想いを形にするための施設となる石巻市子どもセンターを設置することにより、生まれながらに持っている子どもの権利が尊重され、子ども一人ひとりが幸せに健やかに成長できる社会につながることを期待し、ここに「石巻市子どもセンター条例」を制定します。





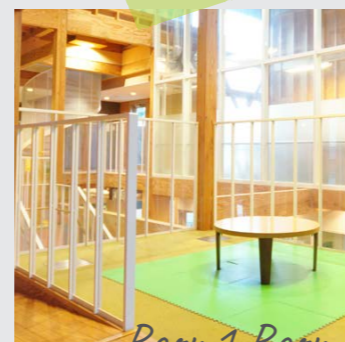
Loof Top

自家野菜を育てている屋上。
イベントスペースとしても使用可能。



キッズコーナー

木のおもちゃやベビーベッドもあり
0歳から安心して遊べます。



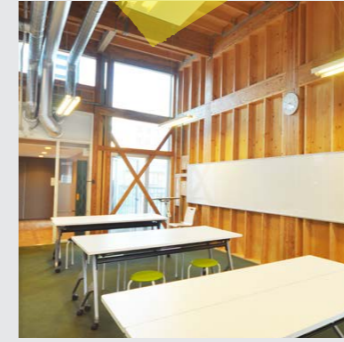
Room1, Room2

飲食可能なフリースペース。
使い方はあなた次第。※



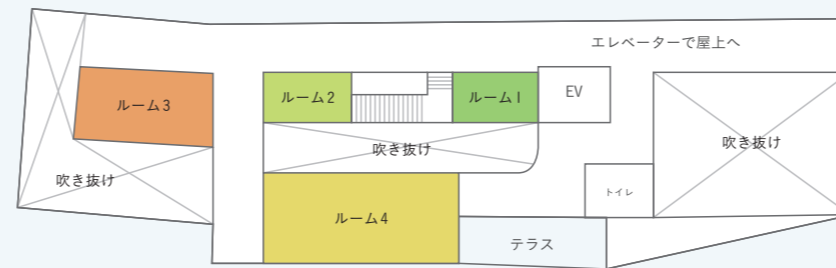
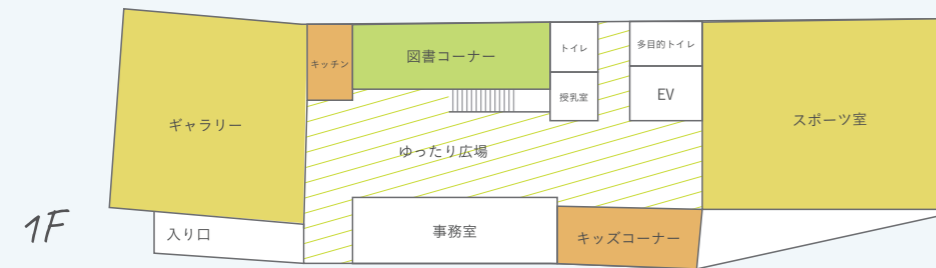
Room3

防音室。楽器の練習が可能。
ギターやアンプの貸し出しもあります。



Room4

勉強やミーティングに
活用できる個室。



Kitchen

材料を持参すればいつでも使用可能。
オープンやホットプレートもあります。※



Library

ゆったり寝ころんで本が読めるスペース。
漫画や小説がずらり。



Garellly

飲食可能なオープンスペース。
友人とゆっくり過ごすのに最適。※



Sports Gym

バスケット、卓球、バドミントンなど
プレイ可能。ダンスの練習にも。



Yuttari Hiraba

子どもセンターのメインスペース。
ハイルーフでインスタ映え間違いなし。
ソファでゆったりもできます。

子どもセンター 事業体系図

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。
子どもの権利には「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」4つの権利があります。
この4つの権利に基づき、子どもが遊ぶことを通して育つこと、子どもの声が子どもセンターの事業や運営に活かされること、地域や社会で子どもが力を発揮できる機会をつくることを大切にしています。

子どもセンターの運営

子どもセンター運営会議

子どもセンターの事業

子ども参加事業

- 子どもまちづくりクラブ
- 子ども会議
- 子ども企画
- Big Voice
- まきトーーク
- 子ども実行委員企画イベント

石巻ハロウィン祭り・夏祭り・らいつの日007

子育て支援事業

- 親子ではび☆はび
- 親子でほかほか
- 音楽であそぼう!
- ベビーマッサージ
- パパ講座
- Mカフェ
- あったかほかほか運動あそび
- 休日子育て相談

子どもエンパワー事業

- アートラボ
- 料理王
- Earth Teens
- 青春力 -Youth Power-

企業・地域との連携事業

移動児童館事業

- 蛇田地区
- 牡鹿、北上、雄勝地区(アンケート)

研修事業

- 子ども子育て支援者講座

子どもの権利啓発

- 子どもの権利月間



子ども参加事業

子どもの権利に基づき運営や事業に子どもの声を活かすとともに、子どもがアクションを起こし、子どもの声を社会に発信する、子どもセンターの核となる事業です。

子どもセンター運営会議



子どもセンターの運営について話し合い、最終決定をする場です。子どもの声を反映して運営されるように、大人委員5名(地域で子どもを見守り、子どもに関係する活動をしている方)、子ども委員5名(子どもまちづくりクラブから2名、子ども会議から3名)で話し合います。子ども委員も大人委員も一緒になり、子どもセンターがよりよいものになるように考え、意見を出し合っています。



代表メンバーが参加

子どもまちづくりクラブ



これまでのとりくみ

石巻市子どもセンターらいつ企画デザイン、立町大通り商店街マップ作成や震災を風化させないためのモニュメント制作、水産イベントの実施、石巻の歴史マップづくり、石巻の復興の様子と子どもたちの願う石巻の未来が描かれた「夢まちフラッグ」の制作、アニメ・マンガをテーマにしたまちなかイベント(まきコミ祭)の開催、ハコブネ。応援プロジェクト、魅力発信プロジェクト食べ歩きツアー

子どもまちづくりクラブは、子どもセンターの子ども参加事業として位置づけられ、子どもたちが地域の一員として、まちづくりに取り組んでいます。今年度は、地域の人たちの意見や困りごとを聞いてみよう、「まちの活性化・市民の交流」「学校・差別・いじめ」「防災・震災伝承」の3つのテーマで「いしのまき視察ツアー」を春休みに企画・実施しました。その後の振り返りや意見交換の中から、「防災・震災伝承」がテーマに決定！夏には防災企画をメンバー自身で企画運営し、「防災・震災伝承」の学びを深めました。11月には地域報告会を行い、まち歩きを通して調べたことを防災マップとしてまとめ、らいつを利用する乳幼児の保護者や地域に住んでいる方々に向け、発表！防災マップの完成と防災についてより多くの人たちに考えてもらうためのイベントの開催に向け、引き続き活動しています。今後も、子どもたちの視点から地域の魅力や課題について考え、取り組んでいくことができる場づくりをしていきます。

- | | |
|------------------------|--|
| 1月 らいつの日007準備/実施 | 8月 「防災・震災伝承」夏の防災企画開催
(まち歩きや防災マップづくり、非常食体験、防災ゲーム体験、お互いの東日本大震災の経験を語り合う会等) |
| 2月 いしのまき視察ツアー準備 | 9月 まち歩き・防災マップづくり |
| 3月 いしのまき視察ツアー | 10月 まち歩き・防災マップづくり |
| 4月 いしのまき視察ツアー | 11月 地域報告会準備・開催 |
| 5月 今年度の活動テーマ決め | 12月 掲示用・配布用防災マップのデザイン検討 |
| 6月 「防災・震災伝承」に関するアイデア出し | |
| 7月 「防災・震災伝承」夏の防災企画事前準備 | |

子ども会議

子ども会議では、らいつの利用方法に子どもたちの声を反映するため、小学4年生から高校生までのメンバーが月に1回集まり、様々な意見を出し合っています。BigVoiceで集まった利用者の声に、スポーツ室の使い方があり議題にしたところ、「らいつは自由なところがいいところ」「ルールで縛るのではなく、自分たちでその場で解決しよう」と、あえてルールをつくらないということに決まりました。その他にも、「らいつで危ないことをしている人がいる」という声から、「職員以外でも見守る人がいたらいいね」と見守り隊という見守る人をつくる活動をしています。今後も子どもたち自身で課題を発見し、話し合っていけるよう活動を続けていきます。

2021年の子ども会議の議題

子ども会議の今年の目標・議題について/忘れ物の保管期間について/忘れ物防止啓発のための動画作成について/コロナ禍での利用について/らいつの中での危険な遊びについて/ Big Voiceについて/運営会議の発表について/スポーツ室の利用について/「未成年の主張」について/石巻市子どもの権利標語の「らいつ賞」について/1年間の振り返り



子どもセンターの愛称「らいつ」

全国から41名48もの作品が集まり、子ども会議及び愛称検討チームで8つの候補作を選びました。そして2014年4月20日に開催された子どもセンター運営会議で厳正な審査のもと、中学生が考えた「らいつ」が選ばれました。「らいつ」の由来は、英語でrights(権利) lights(ひかり)の2つの意味を持ち、子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するという願いが込められています。





子ども企画

子ども企画では、子どもたちがいつでも自由に子どもセンターでやりたいことを提案できます。普段やりたいことがあっても、なかなか実現できない子どもでも、子どもセンターでは、職員をサポートを受けながら、実現させることができます。自分で企画書を書き、参加者を集めたり、広報したりしながら、実現させることのむずかしさ、そして企画が成功したときの達成感を感じることができます。子どもたちから提案された企画は、遊びに来ている小学生・中学生・高校生各1人ずつの3人以上の子どもたちによって、やるかどうかの議論を行います。楽しそう、工夫したところがあるなどの視点で点数をつけ、合計点の8割以上を取ると、承認になります。小学生から高校生までの様々な世代の企画者による様々な企画が行われ、子どものやりたいと思ったことが実現できる場となっています。

今年はコロナ禍ということもあり、さまざまな場所で例年行われていたイベントが中止になっていることを受け、子どもたち自ら「コロナ禍でも楽しめるイベントをやりたい!」と、企画している様子が見られました。企画は例年と比べてたくさんありましたが、コロナの状況を見て開催を見合わせたり、承認までいかないといった企画が多かった傾向がみられました。こんなときだからこそ、職員が子どもたちにもっと寄り添い、どうやったらできるのかを考えつつ、「やってみたい」を実現できる場にしていきたいと思います。

提案者	内容	結果	実施日	参加人数
高校生	節分祭	承認	2/6	80人
中学生	おばけやしき	承認	4/6	16人
高校生	らいつからの脱出!!	承認	4/7	15人
小学生	ホラー映画鑑賞会	承認	4/11	11人
小学生	らいつでおさんぽるんるんるん	承認	4/18	6人
中学生	みんなと動画かんしょう会	承認	5/1	9人
高校生	二次元を語る会	承認	5/30	6人
小学生	らいつでそくしのびごっこ	承認	6/26	12人
小学生	逃走中	承認	7/10	38人
中学生	デュエマ大会	承認	8/1	6人
小・高生	水遊び	承認	8/17	9人
小学生	宝さがし	承認	8/29	9人
小学生	ブロッククリエイター	承認	11/6	14人
高校生	冬の夜空の星を見る会	承認		
高校生	秋祭り(スポーツ)	承認		
小学生	らいつスタンプラリー	承認		
高校生	オリジナル写真立て作り	承認		
高校生	デュエマ大会	承認		
中学生	クラフト部	承認		
小学生	らいつでおばけやしき!	承認		
小学生	冬季限定こたつ導入	承認		
小・中生	ピンゴ大会	承認		



今年開催した企画一例 らいつでおさんぽるんるんるん

小学2年生の企画者が、らいつで行っている他の事業の「食べ歩きツアー」や「防災ピクニック」を受けて、自分もやりたい!と近くの公園にみんなで散歩をするお出かけイベントを企画しました。どうしたらみんなが楽しく参加できるのかを考え、公園に宝を隠して参加した人に探してもらおう「宝探し」やらいつのことを問題にした「クイズ大会」を考え、実施しました。参加者に説明をする台本からスケジュール、宝探しの宝、クイズの問題文など、職員のサポートもありましたが、当日の司会進行まで自分の力でやり切りました。

イベントが終わった後も、もっとらいつで企画がしたいと、隠れながら鬼から逃げる「しのびごっこ」という子ども企画を考え、実施しました。また、この企画の準備をしている様子を見ていた子から自分も「宝探し」をしたいと、新たな企画が生まれるきっかけにもなりました。



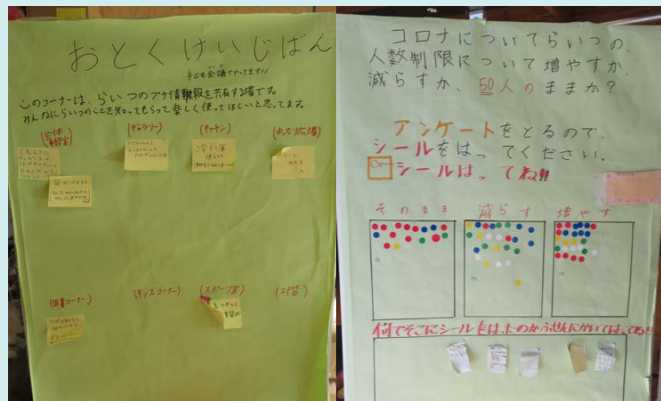
らいつ部活動

子ども企画をきっかけに継続的な場をつくりたいと「部活動」もスタートしました。現在、毎週日曜日に集まってカードゲームをする「デュエ部」と、様々なテーマで月に1度集まって語り合う「語りぶ」があります。どちらも部長が卒業するにあたり、現メンバーへ部長が引き継がれ、今は新部長(中・高校生)が運営しています。色々な学校の様々な学年の子が集う場所だからこそ、同じ趣味趣向の一致する友人ができたり、違うからこそ面白いと思えるような良い出会いの場にもなったりしているようです。

デュエ部: 部員数11名、年間参加者数127名、語りぶ: 部員数2名、年間参加者数21名



みんなで思い切り企画を楽しもう!



Big Voice

事業に子どもたちの声を活かすために、利用者ならだれでも参加できるBigVoiceを子ども会議メンバーが毎年、企画実施しています。今年も、入館制限の人数や、らいつの中で困っていること、おいてほしいマンガ本や絵本について聞くアンケートをとったり、らいつのお得な情報を集めた掲示板を作成したりしました。BigVoiceで出された意見は、子ども会議で集計した後、運営会議で報告し、各事業や利用方法に反映しています。



まきトーーーク

大人13名 小学生6名 中学生3名 高校生6名 合計28名

～平成うまれ石巻芸人よ、あつまれ！『ちょーと、みなさんいいですか？われら石巻芸人です！われらのいしのまきしか勝たん！』～というテーマで子どもたちが石巻芸人となり「夢のまちプラン」を考えました。こんなまちがあったらいいね、と模造紙にアイデアを絵や文字でまとめ、計6つの夢のまちが完成。その後、子どもの声をもっと色々な人に知ってほしいと、今回出たアイデアを直接石巻市長に届けることになりました。参加したメンバーからは「市長さんが意見を否定せずに聞いてくれた」「市長さんの意見を聞いて、自分も市長さんの意見になるほど！と思った」と、充実した様子でした。

2018年4月から運営 指定管理者「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」

「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」は、「NPO法人ベビースマイル石巻」と「NPO法人子どもにやさしいまちづくり」の2団体が構成されています。指定管理者選定のプレゼンのとき、子ども委員からの「子どもの最善の利益をどう考えますか？」「らいつの構想段階から、子どもたちとつながってきた地域や企業との絆をしっかりと引き継いでほしい」「スタッフを変えないでほしい」という声に回答しながら、単なる施設運営ではなく、子どもたちの大切な居場所を守る覚悟が必要だと改めて感じました。子どもの権利を柱に「子ども参加」で子どもたちとともに運営しています。※石巻市は指定管理者制定の過程においても子どもたちが意見を伝えられるように、子ども委員が設置されました



子ども実行委員企画イベント

らいつでは、子どもたちが参加しやすい子ども参加の仕組みの一つとして、年に数回、子ども実行委員を募集して、子どもたちが主体となってイベントを企画運営しています。



夏祭り

例年、夏祭りは子どもたちがやりたいことを自分たちで企画し、店長となって準備していきます。今年も人数分散のため、2日間に分けて開催しました。実行委員メンバーで話し合い、人数制限・時間制限を設け、来館できるものどちらか1日と制限をし、より多くの人を楽しめる工夫をしました。

＜開催店舗＞
スーパーボールすくい、ヨーヨーすくい、まとあて、くじ引き、わなげ、お化け屋敷、ボーリング、お絵かき
実施日：8月21日(土)・22日(日) 参加者：163名 実行委員：23名

石巻ハロウィン祭り

元々は子どもまちづくりクラブが中心市街地活性化基本計画に向けて「商店街でハロウィンパーティを開催する」と提案・実現したハロウィン祭り。今年も、当初のねらいである①商店街活性化になり、②参加者も楽しめ、③三密が防げるものはないか、実行委員のメンバーで検討しました。その結果、開催期間中に商店街を歩いて、おぼけ(キーワード)を集め、集めた数に応じてお菓子がもらえる【石巻ハロウィンゴーストバスター】を開催しました。

実施日：10月23日(土)～10月31日(日)の9日間
参加者：548名 実行委員：3名
協賛：アイトピア大町会、アイトピア銀座会、立町大通り商店街振興組合、中央一大通り会、橋通り商店街振興組合
協力：いしのまき元気いちば、一般社団法人ISHINOMAKI2.0、株式会社まちづくりまぼろう



らいつの日007

ゼロセブン 参加者：106名
開催日：2021年1月17日

有志の子どもたちが実行委員となり、「新しいROLLの世界に」をテーマに、らいつの開館をお祝いする『らいつの日007』を開催しました！R：らいつ、O：オンライン・オフライン、L：リッスン(聴く)、L：ルック(見る)とそれぞれ頭文字に意味を持たせました。当日は感染予防対策して人数制限を設け、オンラインでも参加できる内容を考えました。オンラインらいつツアーでは、ネットから参加し、らいつの館内をまわりながらクイズを楽しみました。ワールドカフェではらいつに来た人(オフライン)と家にいる人(オンライン)がつながり、県外の方やらいつに来たことがない方も参加でき、今までとはまた違った「らいつの日」となりました。

らいつ遊園地(乳幼児向けボールプールやエアトランポリンなど)/ワールドカフェ(テーマ①「らいつの職員について」②「自分の好きな物&苦手なもの」③「こんな国があったらいいな」)/小学生スポーツ大会(ボール投げとしゃほ取りゲームなど)/中学生スポーツ大会(障害物リレーやタオ投げなど)/オンラインらいつツアー(オンライン館内ツアー&クイズ)

子どもエンパワー事業



子どもの様々な興味関心を引き出し子どもが地域や社会とつながることで、自分のもつ力や可能性に気づき、次の一歩を踏み出すきっかけをつくります

アトラボ

芸術体験を通じて、表現方法の多様性やものづくりの楽しさを感じることで、自分の気持ちや言葉をうまく表現できない子ども、様々な方法で思いを伝えられることを知ってほしい。また、その芸術活動を実際に行っている方から話を聞き、体験することで、自分には「こんなことができるんだ」や「もっとやりたい」など自分の可能性を広げる機会にしてほしいと願い取り組んできました。

1月 書き初めをしてみよう！ 生涯発達支援塾TANE 朱紅 8名 / 3月 和太鼓体験会 雄勝町伊達の黒船太鼓保存会有志 4名 / 3月 マーブルングをしてみよう！ NPO法人にじいろクレヨン 6名 / 6月 シーサーづくり～家の守り神をつくらう～ 日高見薫 鈴木由香 10名 / 7月 段ブロックで何をつくる？ 子どもセンター職員 9名 / 11月 みんなで写真を撮ってみよう～レンズごしになに見える？～ 写真家Ammy 5名 / 12月 電気工作実験教室！ 公益財団法人東北電業会 阿部清人 15名 / 12月 あたらしい桃たろうをかながえてみよう！ 劇団「スイミーはまだ旅の途中」 6名 /

今年の料理王は、新型コロナウイルスの影響で1月以降中止となりました。

Earth Teens

社会・人権・平和をテーマに、子どもたちの「知りたい」「やりたい」「考えたい」気持ちを育てる事業です。子どもたち自身が社会課題を見つけ地域とつながれるようにと取り組んできました。今年は3回連続企画「田んぼにいこう」を実施。同じメンバーで継続して体験をすることで、参加者同士の繋がりもできました。田んぼで生き物をさがし身近な生き物について考える企画や、海の生き物にふれながらSDGsについて考える企画など、「楽しみながら学べる」ことを大事に開催しました。

2月 フェアトレード・クラフトリンクでキーホルダーづくり 特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 小川晶子 6名 / 4月 防災ピクニック 子どもセンター職員 5名 / 5月7月9月 田んぼにいこう～田植え・草取り・稲刈り～ 赤間里山農園 13名(延べ35名) / 6月 らいつの屋上で野菜を育てよう！～次世代の畑2021～ サントリーフラワーズ株式会社 15名 / 8月 田んぼで生き物探し むかい＊いきもの研究所 向井康夫 5名 / 10月 海のなかをのぞいてみよう Ishinomaki Save the Ocean Project (ISOP) 8名 / 11月 はじめてのたき火 NPO法人こども∞感ばにー 12名



青春力 -Youth Power-

中高生世代が様々なテーマを通じて地域や社会に関心を持ち、繋がることができる事業です。中高生が参加しやすく、みんなで交流できる企画を通して多様な層がらいつに足を運びきっかけづくりに取り組んでいます。今年は、中高生同士や地域の大人との繋がりを感じてもらうために、まちなかでの企画や継続的な企画を行いました。

1月 ボードゲーム大会① 子どもセンター職員 3名 / 2月 性の話をもっと気軽にオープンに！ 大貫詩織(シオリヌ) 5名 / 3月 卒業進級パーティー 子どもセンター職員 11名 / 4月 模擬選挙 子どもセンター職員 2名 / 5月 スケートボード体験① CREAM ROLL 松川 聖彦 7名 / 6月 屋上映画上映会 子どもセンター職員 2名 / 7月 スケートボード体験② CREAM ROLL 松川 聖彦 7名 / 8月 浴衣で花火 かめ七呉服店(着付け) 14名 / 9月 海のコースターをつくらう 小野誠一 1名(大雪のため) / 11月 デイキャンプ 子どもセンター職員 4名 / 12月 ボードゲーム大会② 伝説のアナログ団ずんだ組 8名



移動児童館事業



アンケートの結果、市内に一館しかない児童館らいつに、遠くてなかなか行けないという声を受け、出張での遊び場を開催しています。今年は、昨年度に引き続き震災以降、市内での移動人口が多かった蛇田地区での遊び場の開催をしました。また、らいつから遠方にある杜鹿・北上・雄勝地区の小中学校に、遊び環境に関するアンケートを実施し、ニーズ調査も行いました。コロナ禍での遊ぶ機会の減少や、人とのつながりが希薄になっている状況で、遊びを通して子どもたちや地域の声を聴いていこうと取り組んでいます。

協力：石巻市社会福祉協議会、中埠二町内会、石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

蛇田地区： 7月25日(日)34名 9月26日(日)36名 10月24日(日)33名
11月28日(日)43名 12月26日(日)16名

研修事業



子ども一人ひとりが、今を生きる主体として大切にされ、見守られ育つことのできる地域や社会をつくるために、多様な視点から学びました。

1月21日 性の話をもっと気軽にオープンに！ 大貫詩織(シオリヌ) / 24名
6月17日 ボランティアコーディネートと子ども支援 上田英司 / 11名
9月16日 遊びの大切さ～遊びは子どもが自ら育ついのちのしくみ～ 嶋村仁志 / 21名

チャイルドファシリテーター研修 講師 子どもセンター職員 / 3名

らいつの子ども参加において、子どもたちの声を引出しサポートするチャイルドファシリテーターを養成する研修を今年から実施

子どもの権利啓発



らいつは子どもの権利を柱に運営しています。また、石巻市は、宮城県で唯一子どもの権利に関する条例を制定しているまちです。そこで、らいつから子どもの権利・子ども参加を発信して、もっと子どもや保護者に知ってもらいたいという思いから、11月20日に「世界こどもの日」がある11月を「子どもの権利月間」として様々な活動に取り組みました。

【今年度実施した取り組み】

- ①子どもの権利に関するオリエンテーション(らいつ探偵)
- ②子どもの権利に関するポスターや本の展示
- ③子どもの権利に関するラジオ配信(らいつラジオ)
- ④子ども会議主催の「未成年の主張」



未成年の主張の様子

子育て支援事業

仲間や地域とつながり、いっしょに育ちあうことを大切に実施。子どもの権利を大切にしながら、子どもの育つ力を引き出すイベント、親子でホッと安心できる場づくりをしています。



Mカフェ

年間参加者数 756名
毎週月曜開催

「乳幼児親子がホッと一息つける場所」をテーマに開催。子どもだけでなく、ママたちのおしゃべりの場にもなっています。偶数月に石巻市図書館、月1でファミリーサポートセンターや病後児室ミルクの看護師もお招きし、様々な相談や交流の場にも。今年はお下がり交換会も実施し、持ち込み方・持ち帰る方両方に喜ばれました。

休日子育て相談



土曜日及び日曜日でも子育てに関する相談を行っています。11時から16時は「休日子育て相談員」がいますので子どもと過ごしながらくつたりと相談することができます。



ベビーマッサージ

年間参加者数 153名
毎月1回開催

はいはいまでの乳児親子対象。親子のスキンシップの方法や赤ちゃんの権利、赤ちゃんの社会参加の視点の大切さを学んだり、子どもの様子を聞いたり話したりするママの情報交換の場にもなっています。毎月開催されるので、他の親子とも仲良くなれます。



親子ではぴ☆はぴ

年間参加者数 238名
年3回開催

0歳児とその保護者を対象にした6週連続講座。地域で活躍する様々な方を講師に招き、週替わりで子育てに関するテーマで講座を実施。毎回活動後に残っておしゃべりをしながらママ達がゆっくりする姿も！最後にはみんなでグループLINEを作り、子育ての輪が広がっています。



親子でほかほか

年間参加者数 127名
毎月1回開催

助産師チームと「やさしい抱っこやおんぶの方法」「おんぶグッズの選び方」等、実践を通して学べる「抱っこおんぶサロン」を開催。ママ達から要望のあった「アンガーマネジメント」「臨床心理士さんのお話」「離乳食」「防災」についての講座も実施。妊婦の参加も増えています。



音楽であそぼう！

年間参加者数 231名
毎月2回開催

しっかり歩く1～2歳児対象。音楽に合わせて歩いたり、時には動物に変身したり、楽器やボールなどを使ったりと、親子で楽しくからだを動かします。最後にはお絵かきやシール貼りなどのプチ製作の時間も。



あったかぽかぽか運動あそび

年間参加者数92名 毎月1回開催

3～6歳児対象。前半は年中～年長。後半は満3歳～年少と2部構成で実施。体育教室の先生をお招きし、鉄棒やとび箱、マット運動など、広いスポーツ室で思いっきりからだを動かしています。いろんな動きをすることで、自分のからだを知る機会にも。



パパ講座

11月23日開催
参加者数62名

今年は全館貸し切りでパパ講座を開催！石巻市出身のポプラ社の社長をお招きし、絵本の「のびのび読み」について講話をしていただきました。大型絵本の読み聞かせやシール貼り遊びもあり、子どももパパも他の家族と話がはずんでいました。パパのスキルアップにも、ママのリフレッシュの時間にもなっています。

企業・地域との連携事業



子どもたちが企業や地域の皆さんと顔の見える繋がりを持つことで、企業の専門性を知り、多くの大人と関わる機会にしたい。企業や地域の皆さんに、子どもたちの様子や子どもの権利について知って欲しい。そんな思いから、様々なプログラムや活動をしています。今年は、らいつをより地域に開いていくため「オープン・ザ・らいつ」をモットーに新たな活動に取り組んでいます

お茶っころらいつ

毎週月曜日 15:00～17:00 実施

「オープン・ザ・らいつ」の一環として、中庭を開放し、ゴザをしいて机やおもちゃを外に出し、だれでも気軽にお茶っこできる場をつくりました。いつもの風景の中の少し非日常的な空間ともなり、子どもたちや保護者にも好評で、普段はあまり交流する機会のない地域の方とも挨拶したりお話ししたりできる機会になりました。また、ボランティアで若者が関わられる場としても機能していました。今後は、より積極的に地域の方に声掛けをして、子どもたちと地域の方が日常的に関われる機会にしていきたいです。

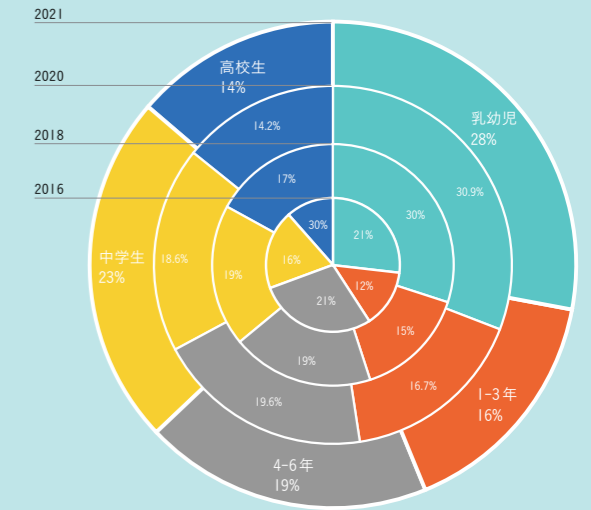
ボランティア受け入れ

より地域に開くこと、若者の活躍の機会をつくることを目的に、日常的なボランティアの受け入れをしています。ボランティアに参加する際には、事前に子どもの権利や遊びに関することなど、らいつが大切にしていることを伝え、考えてもらうオリエンテーションを実施しています。これまでらいつを利用していただいていた若者にとどまらず、教育現場を志している学生、子どもや教育に関心のある大人など県内外から様々な方が来てくれます。

データで見る子どもセンター

2021年は、2020年に続き、新型コロナウイルスの影響で、利用や活動を制限しながらの開館となりました。2020年に比べ、一般利用者数が約4000人増加し、少しずつ利用人数の増加がみられたものの、やはり第4波(3~4月)、第5波(8~9月)の期間では、例年に比べ、利用人数の落ち込みがみられました。

利用人数に変化はみられるものの、らいつの特徴である乳幼児から高校生までの世代が幅広く利用している点は、今年度も変わらず、その傾向が見られます。平日・土日問わず、乳幼児から小中高生世代までの異年齢の子どもたちが一緒に遊んでいる様子がたくさん見られ、異年齢での遊びやコミュニケーションの場となっています。乳幼児親子同士での子どもの預け合いをする様子も見られ、保護者にとっても、子どもの育ちや悩みを共有する場となっています。また子ども会議で、感染予防対策についてらいつでできることを検討した他、ハロウィン祭りを従来の1日開催ではなく、期間を1週間程度設け、密を避けられるように開催するなど、新型コロナウイルスと向き合いながら、できることを子どもたちと職員と一緒に考え、活動に取り組んだ1年でした。これからも子どもたちの声を聴き、その声を活かし、0歳から18歳までの子どもたちが幅広く利用できるような環境づくりに取り組みます。

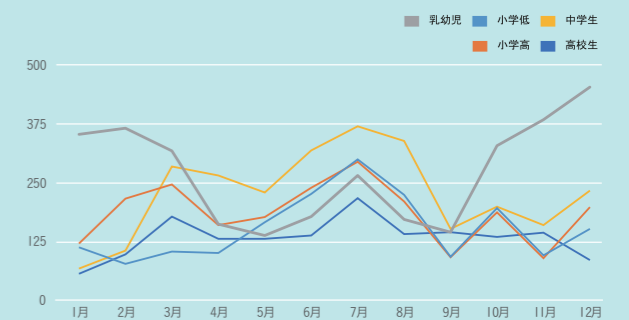


1-12月 一般来館者年齢別割合

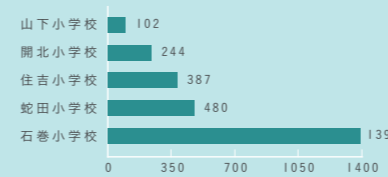
1-12月 延べ来館者数

	乳幼児	小学低	小学高	中学生	高校生	おとな	合計	2020年
一般来館	3,257	1,848	2,230	2,721	1,601	3,016	14,673	11,052
定期開催事業	921	179	172	139	152	859	2,422	1,998
行事	202	172	135	37	36	374	956	1,113
子ども企画	37	69	53	72	52	33	316	27
団体利用	54	89	10	3	22	154	332	357
見学	2	3	0	14	31	175	225	198
総合計	4,473	2,360	2,600	2,986	1,894	4,611	18,924	14,745
2020年	3,553	2,001	2,069	1,770	1,412	3,940	14,745	

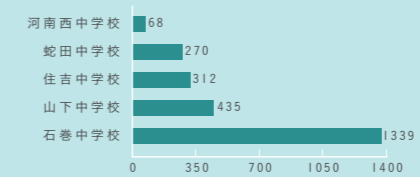
1-12月 一般来館月別年齢別推移



小学校別年間利用者数(上位5校)



中学校別年間利用者数(上位5校)



高等学校別年間利用者数(上位5校)



※2020年から、新型コロナウイルス感染予防対策のため、入館対応・集計方法が異なり、延べ人数での記載となっています。



利用者の声

子どもの声に対応して、Wi-Fiをとばす日をつくっている。

何年たってもらいつがあったほしい。大人になっても、あったら子どものころの思い出がよみがえるかも知れないから。
らいつは、何年たってもずっとこの石巻にあったら、良いな。

走ってもさわりでもおこられないし、いろいろな人とあそべるし、いろいろなものであそべる。意見をだしたり「こうしてほしい」というとかなえてくれる。

らいつという施設を1つでも多く作ったほうがいいと思うぞ。

しょくいんの人はいつもみんなにやさしいし、ともだちがわるいことをしたらちゃんとおこってくれるから、らいつにいてとってもうれしいです。



お部屋が気持ちがいい。寝るととくに気持ちがいいです。

いろんな経験ができて、自分たちでやりたい企画ができる。

家にいるより子どもが活き活きと活動している、子どもと向き合うことができる。

子ども主体で活動できる貴重な場所です。いつもあたたかい見守りありがとうございます！

子どもにとっての居場所にもなっていますが、親にとっても新しい出会いがあったりして、とても充実した大切な所だから。



らいつ職員が大切にしたいこと10か条

- 1 職員は、らいつにいる子どもも大人も含めて、ひとりひとりを大切にする(職員同士も)
- 2 職員は、利用者のあらゆる声(変化や声にならない声も含めて)を聴き、「やってみたい」を大切にする
- 3 職員は、利用者の気持ちを受け止め、利用者を信じて待つ姿勢を大切にして、見守る
- 4 職員は、子どもにとって遊びや遊びを取り巻く環境が大切なものであると理解する
- 5 職員は、子ども自身の思いや気持ちを大切にしながら、子どもにとって何が一番良いか考える。ときには失敗も必要と理解する
- 6 職員は、誰でも気軽に来やすく安心できる環境をつくるために、利用者との日常的なかかわり・ふれあいを大切にする
- 7 職員は、利用者や支援する、されるの関係ではなく、一人の人としてお互いに学び・育ちあう関係をつくる
- 8 職員は、社会・地域・人と人のつなぎ役になるために、多様な引き出し・選択肢を持ち、仕掛けをする
- 9 職員は、自身の心身の健康・いきいき・ワクワクを大切にする
- 10 職員は、職員同士のお互いの気持ちや情報を日々共有し、振り返り、子どもセンターの実践を通して、子どもの声や意見、子どもの権利を社会に向かって発信する





石巻市子どもセンター らいつ

〒986-0824 石巻市立町1丁目6番1号

TEL:0225-23-1080 / FAX:0225-23-1081

開館時間 9:30 ~ 19:00

休館日 年末年始、祝日、第1・3木曜日

